清水寺周辺エリア

～清水坂・茶わん坂・産寧坂・八坂ノ塔（法観寺）・五条通～

視点場（境内）　特に着目する通り
視点場（参道等）　（白線）　エリアの主な通り

エリア概要

- 清水地域は、清水寺をはじめ法観寺（八坂ノ塔）、六波羅蜜寺や六道珍皇寺などの古社寺が存するとともに、江戸初期には京焼・清水焼が発達し、地場産業としての基盤を形成し、近代初頭の市街地は、地域一帯に広がりながらもなお、多くの空地をとどめていたが、今はほとんど建て詰まっている。
- 祇園・清水寺周辺地域は、八坂ノ塔（法観寺）、高台寺等の由緒ある社寺建築物と産寧坂、二年坂の石段と折れ曲がった石畳の坂道、五条坂、ちゃわん坂等の道に沿って建ち並ぶ江戸時代末期から昭和初期にかけての京町家からなる町並み等、通りごとに特性が異なる景観が融合している。江戸時代から明治時代にかけて建てられた京町家を残す産寧坂や大正時代に住宅地として開発された石塀小路は、文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区に指定されている。
- この地域では、高みから市街地や社寺群を眺望あるいは俯瞰することができる視点場が数多く分布していることも特徴となっている。

清水寺（世界遺産）

清水寺は、延暦17年(798)に創建された。[1)]

清水寺の境内からは、舞台の上、奥の院などから境内周辺の緑越しに市街地への眺望が広がっている。

仁王門は参道から一段と高い位置にあり、瓦屋根が連続する門前の町並みを俯瞰できる。

奥の院からの眺め

西門からの見下ろし

産寧坂伝統的建造物群保存地区・八坂ノ塔（法観寺）

八坂ノ塔(法観寺)などの由緒ある社寺建築物、産寧坂、二年坂の石段と折れ曲がった石畳の坂道、そしてこの道に沿って建ち並ぶ江戸時代末期から大正時代にかけての町家などが一体となってすぐれた歴史的風致を形成している。

なお、現在の道に沿って建ち並ぶ茶店や伝統工芸品を商う店は、近世の名所巡りの系譜をひくものとみることができる。

産寧坂

八坂ノ塔（法観寺）

下河原町通（石塀小路）

石塀小路一帯は、明治時代末期から大正時代初期にかけて、貸家経営を目的とする宅地開発が行われて、今日に至っている。当地区の景観は、下河原通と高台寺北門通を結ぶ路地(石塀小路)に特徴があり、連続する石畳や石塀、石垣は、当初の様式を保つ和風住宅群と共に大正時代初期の町並みの面影をよく残し、京都市内でも独特の空間となっている。

清水坂

清水寺門前の遊興地として賑わい、元禄(1688－1704)頃には多くの茶屋が営まれ、また土産品を売る「清水坂茶店」が軒を連ねた。[2)]

現在も門前としての賑わいを見せつつ、かつての景観を残している。

ちゃわん坂

他の参道に比べると比較的新しく、大正11年以降の地図に描写が見られる。

清水寺の裏参道といわれ、五条坂と同様に陶芸家や陶器商も多い。[3)]

渋谷街道

本街道は、粟田口の三条街道とともに古代より京の東の出入口として常に注目をあびてきた。

17世紀中頃から町並が発展し、現在も、ところどころ古い宅地が見られる。[4)]

五条坂・五条通

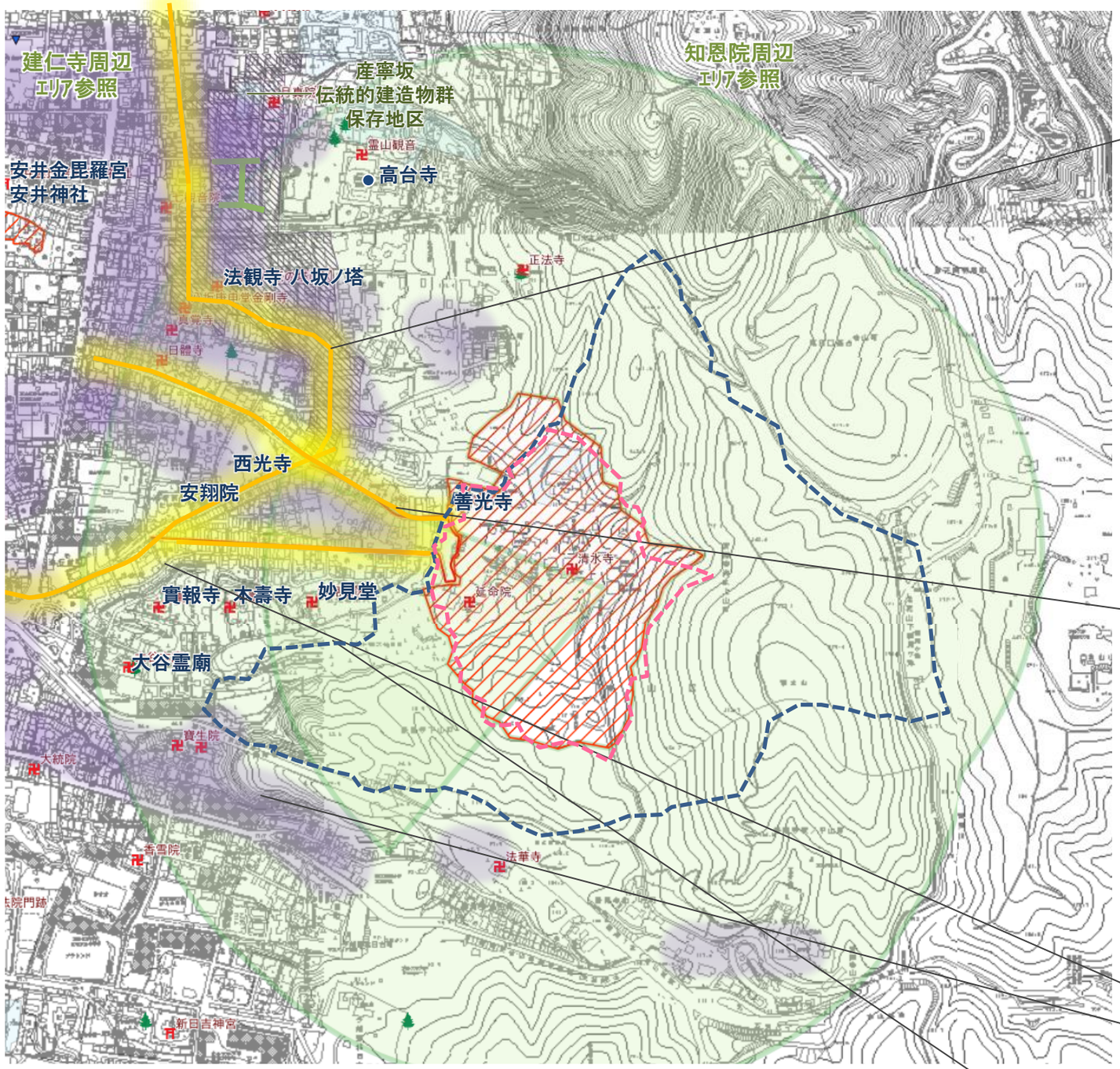
近世初頭には、音羽焼の陶器製造がはじまり、五条坂は、東山における焼き物の大生産地であり、窯や陶器店でにぎわった。[5)]

現在も、五条通沿いには陶器店が多く建ち並ぶ。五条坂には、陶芸店の名残はあまり見られないが、集積する寺院の伽藍や土塀、沿道の石積擁壁などが特徴的である。

五条通

五条坂

エリアの概要



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京都を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※
- 特に着目する通り
- 明治25年以前から存在する市街地
- 明治16-18年時点の境外
- 明治16-18年時点の境内
- 伝統的建造物群保存地区

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

二寧坂・産寧坂・下河原町通

17世紀中頃には、産寧坂の下から八坂の塔を経て、八坂神社正面の下河原町通へ向けて町並みが発展した。（清水寺参道についての論文）この道に沿って建ち並ぶ江戸時代末期から大正時代にかけての町家などが一体となってすぐれた歴史的風致を形成している。

石塀小路は、明治時代末期から大正時代初期にかけて、貸家経営を目的とする宅地開発が行われたといわれ、現在も、連続する石畳や石塀、石垣は、当初の様式を保つ和風住宅群と共に大正時代初期の町並みの面影をよく残し、独特の空間となっている。

八坂ノ塔（法観寺）

産寧坂

石塀小路

清水坂

この地はもと清水岡と称したが、延暦年間（782―809）の清水寺創建で参詣路が開け、洛中から清水寺へ至る最短の道となり、また山科へ向けて東海道に合する近道として、交通の要地となった。[6)]

近世に入ると清水寺門前の遊興地として賑わい、元禄（1688―1704）頃には多くの茶屋が営まれ、また土産品を売る「清水坂茶店」が軒を連ねた。[7)]
門前としての賑わいを見せつつ、かつての景観を残している。

五条坂

16世紀末に秀吉が五条橋を南寄りに付け替えたことにより、新五条橋から清水寺に至る五条坂が急速に発展し、沿道に町並みが形成された。（清水寺参道についての論文）

近世初頭には、音羽焼の陶器製造がはじまり、五条坂は、東山における焼き物の大生産地となり、窯や陶器店でにぎわった。[8)]

昭和20年の強制疎開などにより、陶器の町としてのアイデンティティーは薄れつつあったが、毎年８月７日から10日までの「陶器まつり」には現在も盛り上がりを見せる。[9)]

五条通

五条坂

延年坂

明治２年の絵図にも描写があり、参道の一つであったことがうかがえる。（清水寺参道についての論文）
道沿いには寺社が見られる。

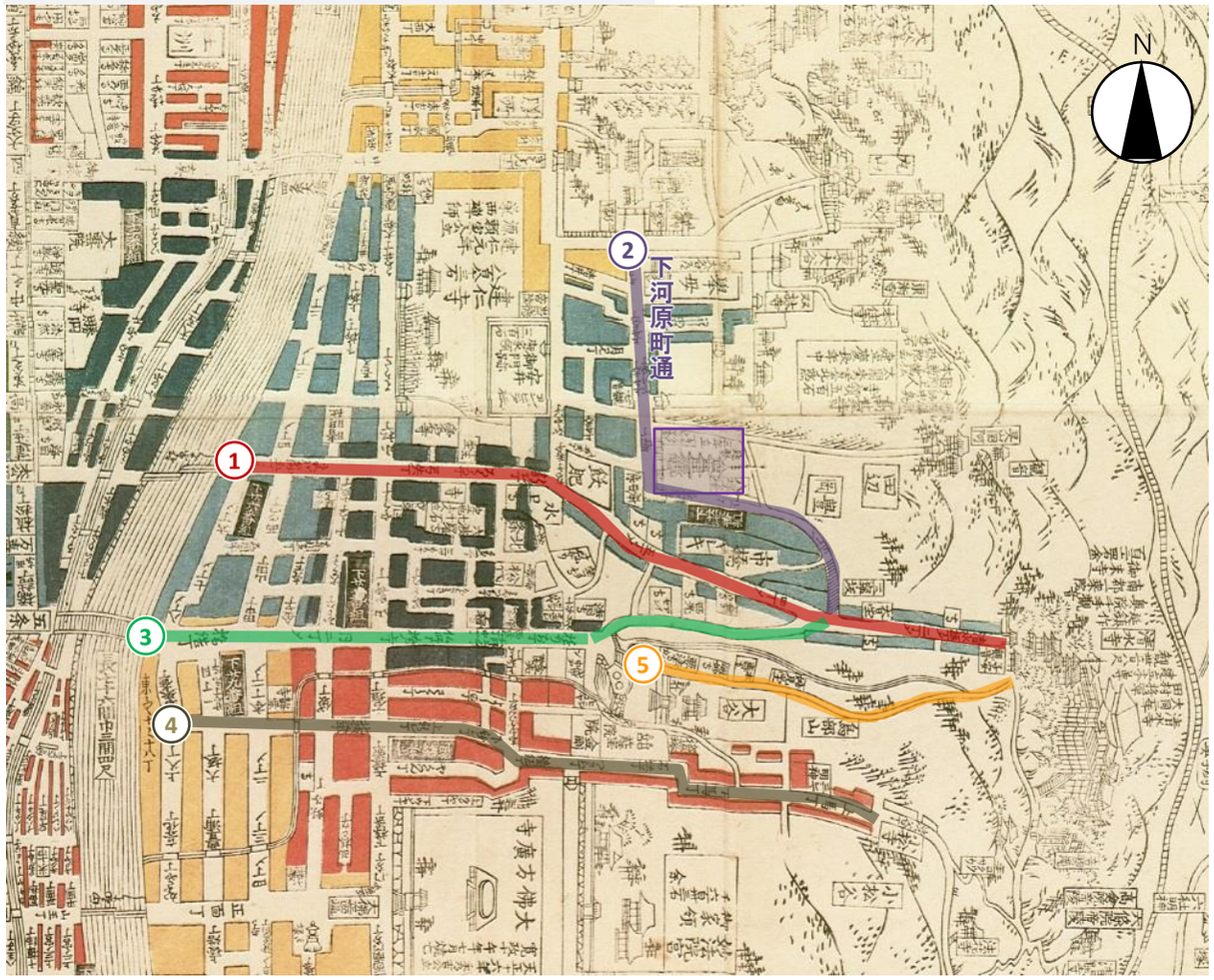
渋谷街道

17世紀中頃には、東山を越えてくる渋谷街道沿いに町並が発展した。（清水寺参道についての論文）

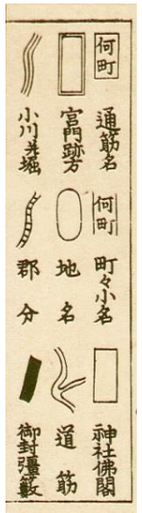
本街道は、粟田口の三条街道とともに古代より京の東の出入口として常に注目をあびてきた。現在も、ところどころ古い宅地が見られる。

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年（1869年）（上地政策による境内地減少前）



京町御絵図（明治2年）



当エリアにおける歴史事象としては、聖徳太子建立と伝える法観寺の創建がはじまりである。ついで延暦17年（798）に清水寺が創建された。

江戸時代の当エリアの主要な産業に清水焼がある。その後、都市化の進行にともない、窯元は昭和40年頃に山科区に集団移転している。[10)]

① 清水道

全道町並みが連続し、発展していることが分かる。

この地はもと清水岡と称したが、延暦年間（782－809）の清水寺創建で参詣路が開け、洛中から清水寺へ至る最短の道となり、また山科へ向けて東海道に合する近道として、交通の要地となったためにこの坂には運送業にたずさわる車借を中核とする「宿」が形成された。[11)]

中世まで、清水道は唯一の清水寺参詣道であった。（清水寺参道についての論文）

近世に入ると清水寺門前の遊興地として賑わい、元禄（1688－1704）頃には多くの茶屋が営まれ、また土産品を売る「清水坂茶店」が軒を連ねた。[12)]

② 二寧坂・産寧坂と八坂ノ塔

17世紀中頃には、産寧坂の下から八坂の塔を経て、八坂神社正面の下河原町通へ向けて町並みが発展した。四条通の鴨川から八坂神社までは町並みが連続し、洛中から四条通、八坂神社、八坂ノ塔を辿る参詣経路もかなり利用されたと推定できる。（清水寺参道についての論文）

③ 五条坂

16世紀末に秀吉が五条橋を南寄りに付け替えたことにより、新五条橋から清水寺に至る五条坂が急速に発展し、沿道に町並みが形成された。大谷本廟入り口から産寧坂の三差路までは町並はない。道沿いには寺社が見られる。（清水寺参道についての論文）

近世初頭には、音羽焼の陶器製造がはじまり、五条坂は、東山における焼き物の大生産地となり、窯や陶器店でにぎわった。[13)]

④ 渋谷街道

17世紀中頃には、東山を越えてくる渋谷街道沿いに町並が発展した。（清水寺参道についての論文）

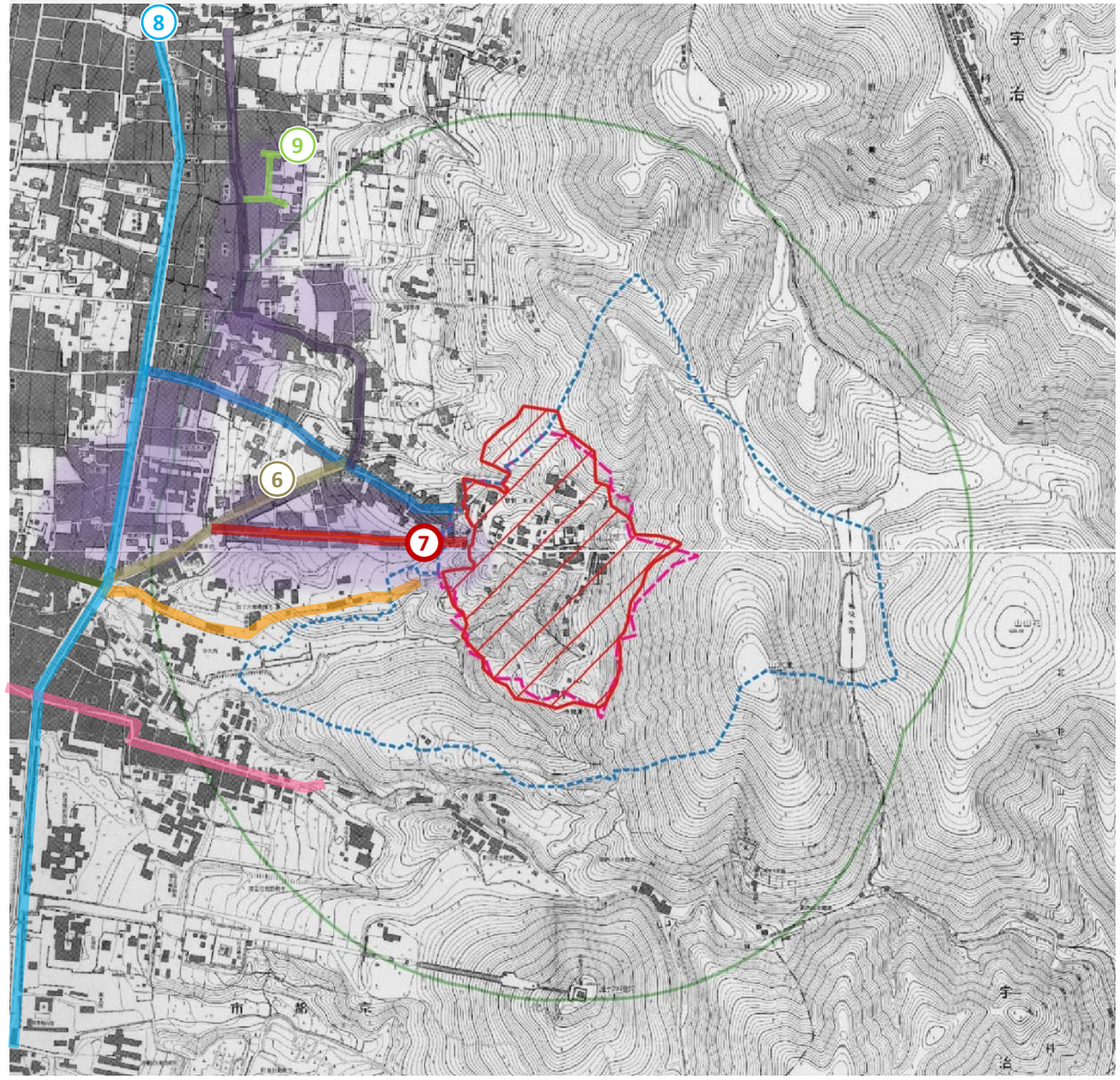
本街道は、粟田口の三条街道とともに古代より京の東の出入口として常に注目をあびてきた。[14)]

⑤ 延年坂

町並みはないが、参道の一つであったことがうかがえる。道沿いには寺社が見られる。（清水寺参道についての論文）

エリアの土地利用の変遷（2）

大正11年(1922年)



明治16－18年時点の境外地
明治16－18年時点の境内地
近景デザイン保全区域
視点場（境内）
特に着目する通り

資料：京都市都市計画基本図(大正11年)(京都大学文学研究科所蔵)
画像：立命館大学アート･リサーチセンター

⑥ 五条坂
大谷本廟入り口から産寧坂の三差路までの町並が発展していることがわかる。

⑦ ちゃわん坂
新たに道ができており、町並が発展していることがわかる。

⑧ 東大路通
清水道以南の東大路通が延長され、道沿いが市街化していることがわかる。

⑨ 石塀小路
明治時代末期から大正時代初期にかけて、貸家経営を目的とする宅地開発が行われたという。

清水寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(1)

清水寺

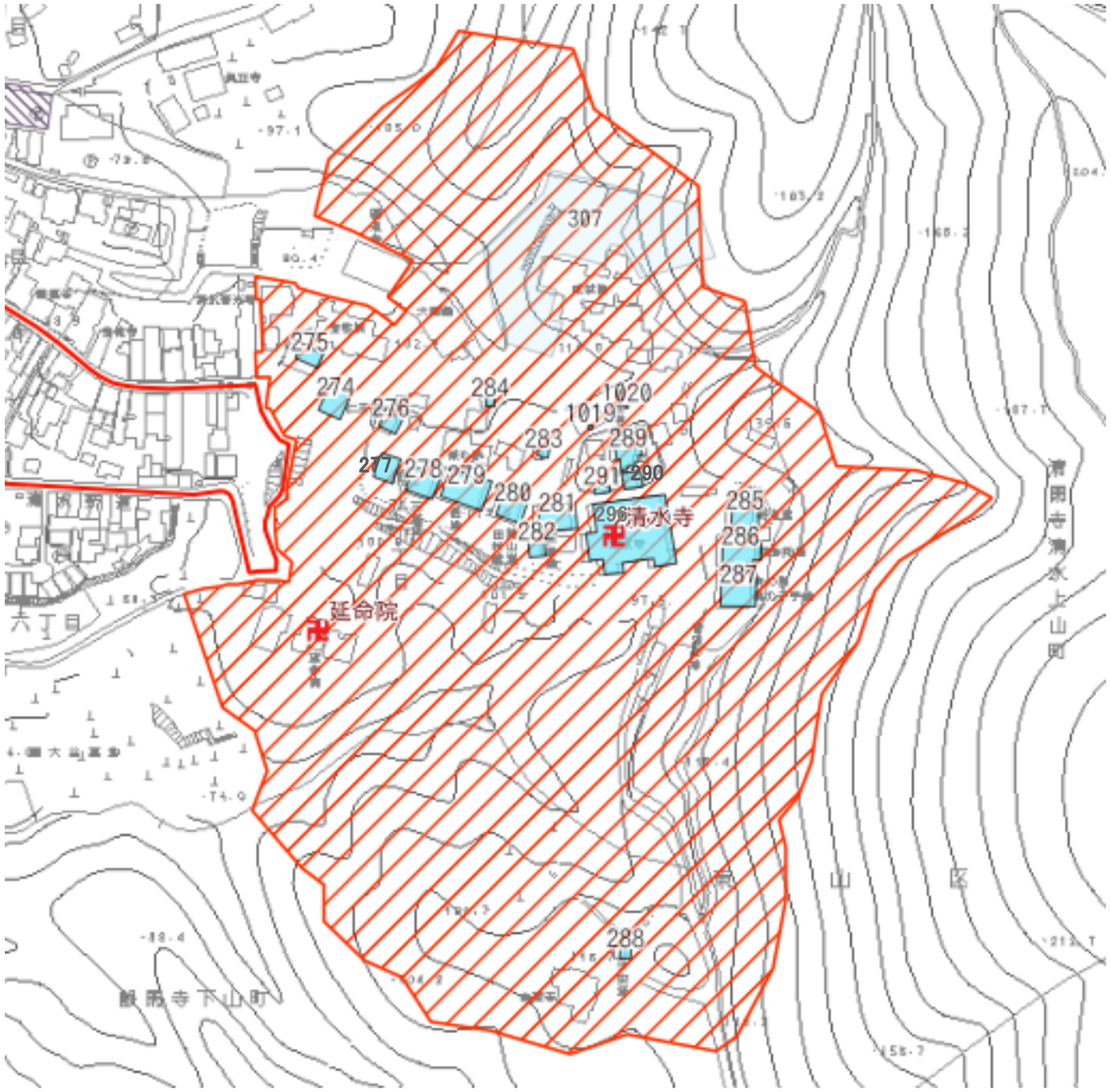
清水寺は『清水寺縁起』によると、宝亀9年（778）に僧延鎮が音羽の滝上に観音を祀ったことに始まり、延暦17年（798）には坂上田村麻呂が仏殿を建立して桓武天皇の勅願寺となったと伝えている。創建後何度も火災によって焼失したが、その都度再建され、現在は西門・三重塔・経堂・開山堂・轟門・朝倉堂・本堂・阿弥陀堂が東西に並び、そのほか周囲に仁王門・馬駐・鐘楼・北総門・釈迦堂・奥の院・子安塔・鎮守堂（春日社）、そして鎮守社の地主神社社殿が建っている。大半の建物は17世紀前半に再建されたものであるが、こうした景観は13世紀にはすでに成立していた。

伽藍の中心となる国宝建造物の本堂は寛永10年（1633）に再建された懸造りの建物で、いわゆる「清水の舞台」として知られ、林立する高い束柱に貫を縦横に通して豪快な姿をみせている。また、仏堂である石敷の内陣と礼堂である板敷の外陣からなる本体に裳階、正面庇、翼廊、舞台がつくという平面や、その全体に寄棟造り・檜皮葺の大屋根をかける架構は、平安時代からの形を受け継いでいる。

清水寺は、これらの国宝・重要文化財16棟の建造物のほか、境内の東寄りには江戸時代初期の借景の技法を用いた名勝指定の成就院庭園がある。また、これらの周囲に広がる自然景観もみごとである。[15)]

■ 文化財

国宝	本堂	296				
国指定重要文化財	仁王門	274	馬駐	275	鐘楼	276
	西門	277	三重塔	278	経堂	279
	田村堂	280	朝倉堂	281	轟門	282
	本坊北総門	283	鎮守堂（春日社）	284	釈迦堂	285
	阿弥陀堂	286	奥院	287	子安塔	288
	地主神社　本殿	289	地主神社　拝殿	290	地主神社　総門	291
	清水寺　境内地	1019	地主神社　境内地	1020		
国指定名勝	成就院庭園	307				



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京都を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

清水寺境内の歴史的資産と守っていきたい眺め(2)

［国宝］

本堂※

［国指定重要文化財］

仁王門※

馬駐※

鐘楼※

西門※

三重塔※

経堂※

田村堂※

朝倉堂※

轟門※

本坊北総門※

鎮守堂（春日社） ※

釈迦堂※

阿弥陀堂※

奥院※

子安塔

地主神社　本殿※

地主神社　拝殿※

地主神社　総門※

清水寺　境内地

地主神社　境内地

［国指定名勝］

成就院　庭園※

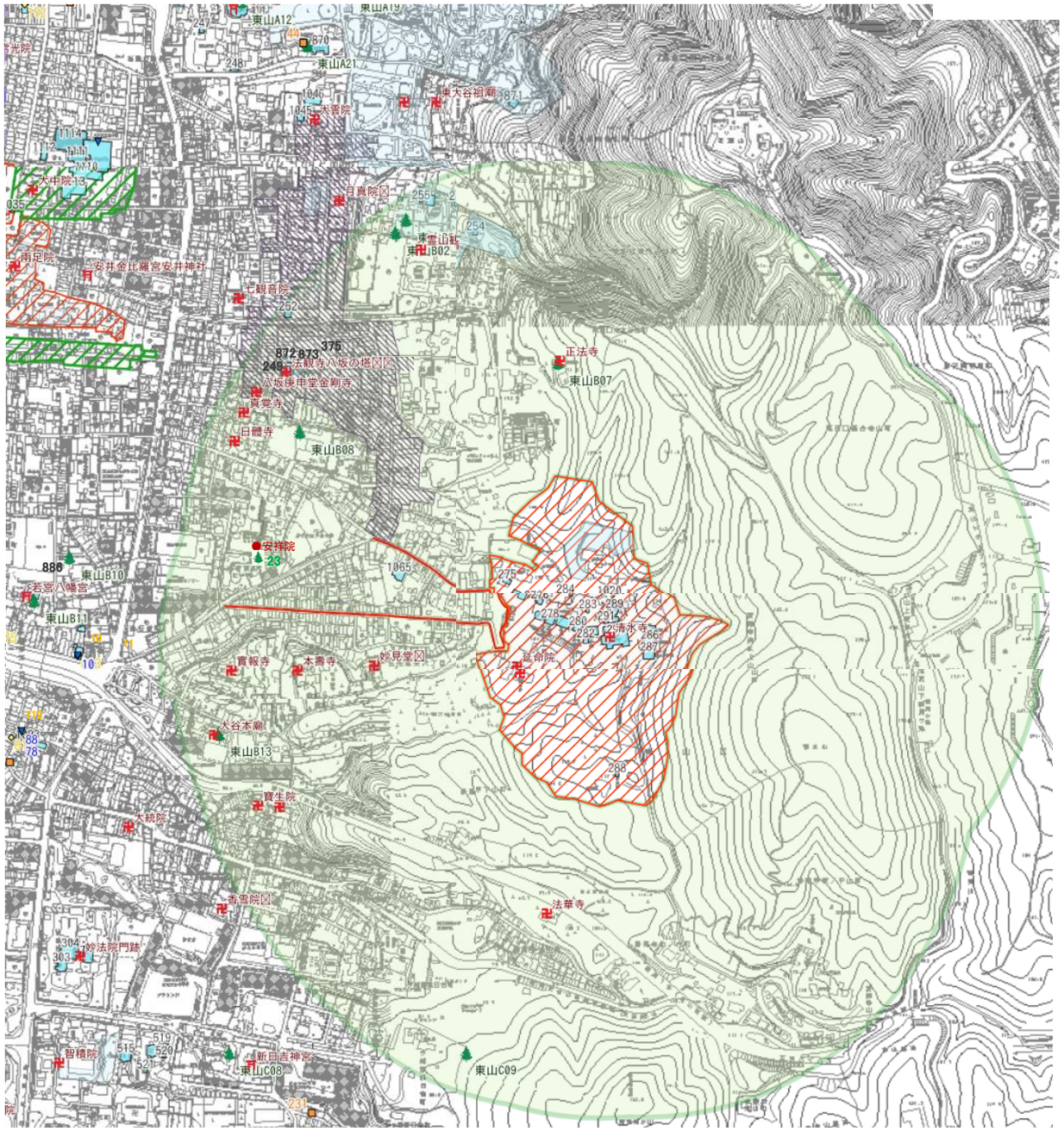
■ 清水寺境内からの守っていきたい眺め(清水寺へのヒアリングより)

●西門から市街地への眺め

境内からの守っていきたい眺めとして、特に西門から市街地への見下ろしの眺めがあげられる。

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

清水寺周辺の歴史的資産(1)



※　詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域
- 伝統的建造物群保存地区

建造物・庭園

- 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物
- 歴史的意匠建造物
- 界わい景観建造物
- 京都を彩る建物や庭園
- 文化財（建築物）
- 文化財（史跡・名称）
- 国土地理院社寺データ等　※

樹木

- 天然記念物
- 保存樹・区民の誇りの木

※　国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15･16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

■ 法観寺

［重要文化財（五重塔）、 市指定文化財（太子堂等）、市指定史跡（境内）］

北は八坂神社、南は清水寺のほぼ中間に位置する。霊応山と号す、また八坂塔と通称する。臨済宗建仁寺派。高さ約46メートル、周囲約6、4メートル四方の本瓦葺五重塔(本堂、国指定重要文化財）と薬師堂、大師堂が現存し、ことに五重塔は東山一帯のシンボルとされる。明治末年までは京都建仁寺塔頭大中院の管理下にあったが現在は独立している。本尊として五智如来五体（釈迦・大日・阿弥陀・阿閦・宝生）を安置。ほかに聖徳太子三歳像を併置。[16]

五重塔（八坂塔）
重文

太子堂
（附 棟札１枚・扁額１面）
及び薬師堂
市指定

境内
市指定

■ 八坂神社

［重要文化財（石鳥居、本殿、楼門、末社蛭子社社殿等）］

石鳥居※
重文

四条通の東端に位置し、背後は円山公園。東大路通に面する西側に朱塗の西楼門があるが、正面は南の下河原通に開かれた南楼門で、本殿も南面する。境内には本殿・拝殿を中心に多くの摂社・末社がある。旧官幣大社。平安時代には22社の一つで、近代以前は祇園感神院、また祇園社と称し、明治維新に伴う神仏分離後、現社名となる。祭神は素戔嗚命（旧牛頭天王）[17]

■ 安祥院

清水寺参詣道の途中左（北）側に位置する。浄土宗。東山安祥院木食寺と号する。本尊阿弥陀如来像は木食正禅養阿自作とされ、六阿弥陀巡拝の一。また地蔵堂内には日限の地蔵を安置。

浄土宗無本寺であったが、明治6年（1873）４月浄土宗鎮西派知恩院末となった。寺宝の木食養阿上人絵伝は、養阿没後まもない江戸時代のものと思われる。墓地には木食上人墓がある。[18]

■ 大谷本廟

浄土真宗の開祖親鸞の廟所としてはじまる。本尊は阿弥陀如来。浄土真宗本願寺派に属し、俗に西大谷と称する。五条坂北側にあり、廟所・拝殿（明著堂）・唐門・仏殿（本堂）・鐘楼・鼓楼・聴聞所・対面所・御成殿・無量寿殿・土蔵・諸講詰所がある。[19]

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

■ 若宮八幡宮

［市指定文化財(本殿)］

本殿
市指定

五条通が東大路と交差する地点よりやや北西に鎮座。祭神は仲哀天皇・神功皇后・応神天皇で、昭和24年（1949）には陶 祖神椎根津彦命が合祀された。旧郷社。もと左女牛西洞院（現京都市下京区）にあり、六条左女牛八幡、六条左女牛若宮などとよばれた。[20]

現在の社殿は承応3年（1654）の建造であると伝えられている。本殿玉垣内にある御影石の八角形手洗水鉢には至徳三年（1386）五月九日とある。足利義満の寄進と伝え、移転前の様子を描いた「足利将軍若宮八幡宮参詣絵巻」（神社蔵）にも描かれており六条より移されたものであろう。社宝として、ほかに伝足利義政画像がある。

若宮八幡宮文書は康永2年（1343）を最古とする室町幕府発給文書が多く、また徳川家康から家茂に至る所領安堵の朱印状なども含む。毎年8月に氏子の陶器業者が陶祖神椎根津彦命を祀る陶器祭があり、各地からの陶器業者が露店を並べて賑わう。[21]

■ 景観上重要な建築物、庭園等

河井寛次郎記念館

［国登録有形文化財(主屋、素焼窯等)、
景観重要建造物・歴史的風致形成建造物、歴史的意匠建造物］

▼78、88/◆112

大正から昭和にかけて活動した陶芸家・河井寛次郎が、昭和12年に自らの設計で建築した住居兼工房で、現在は、本人の作品や登り窯の遺構を展示する記念館として公開している。

（登録理由）

東大路五条周辺は、古くから清水焼の中心地であり、現在も陶磁器関係の小売業や工房が多く存在する地域である。当該建造物は、明治から大正にかけて民藝運動に携わった陶芸家河井寛次郎が、自邸として自ら設計したものであり、郷里安来地方で見られる様式に加え、飛騨、信州地方の民家に見られる空間構成や意匠を取り入れるとともに、作家独自のデザインを加えて再構成することによって、独特の存在感を持つ建造物となっている。京町家とは異なる空間構成・意匠であるにもかかわらず、民家の美を意識した重厚な構えでもって、周囲の町並み景観の重要な要素となっている。

自宅、工房以外にも、京焼の陶工、清水六兵衛から受け継いだ京式の登り窯が残されており、寛次郎が作陶を行うとともに、多くの文化人との交流が行われ、民藝運動の主要な舞台のひとつとなった。こうした地域の伝統産業に関わる遺構を残すとともに、民藝運動に深く携わった河井寛次郎の作陶活動やその精神が表現された生活空間を体感することができる記念館として公開されており、地域の伝統産業や文化の伝承において貴重な建造物である。ものづくり・商い・もてなしのまち京都及び文化・芸術のまち京都の歴史的風致を形成している。

小川邸(文齋窯)

［景観重要建造物、歴史的意匠建造物］

▼10 / ◆10

（指定理由）

居住棟と土蔵は江戸時代末期の建造物として貴重である。表屋は、大正８年頃に増築されたもので、五条坂の良好な通り景観を構成するうえで重要である。また、良好に保全されたシュロ竹の植えられた中庭や緑豊かな座敷庭等が、建造物と相まって風情を醸し出し、建造物の価値を高めている。加えて、五条坂の歴史を今に伝える登り窯は、地域の歴史を伝える建造物として、地域の景観を良好に継承するものである。

澤吉

［歴史的意匠建造物］

◆11

■ 文化財（建築物）、史跡・名勝　等

順正清水店 五龍閣

［重要文化財］

松風嘉定の邸宅として大正年間に建築され、設計は日本の近代建築に大きな影響を残した武田五一である。洋館でありながらも随所に和風の面影が残る貴重な建物となっている

重文

順正清水店は、清水焼から事業を起こした実業家である松風嘉定の邸宅として、京都を代表する近代建築家、武田五一の設計により大正10年（1921）頃に建てられた。木造４階建の建物には、人造石洗い出し仕上げの外壁に縦長の窓やベイウインドウが付き、幾重にも重なる和風の瓦屋根を備えるなど様々なスタイルを取り入れた折衷様式の外観をとっている。内部は、１、２階とも大きな階段室を軸に部屋を配置し、３階は洋室１室のみの構成で、４階は、眺望の良い立地を活かし望楼として使用されていたとみられる。内装においても、洋風をベースに日本の伝統的なデザインを巧みに組み込んだ意匠となっている。内外部ともによく保存され、その特異な意匠などは重要な価値がある。また、京都に深く関わった実業家と建築家の手により建築された住宅遺構として貴重である。

［市指定名勝］

清水家十牛庵庭園
市指定

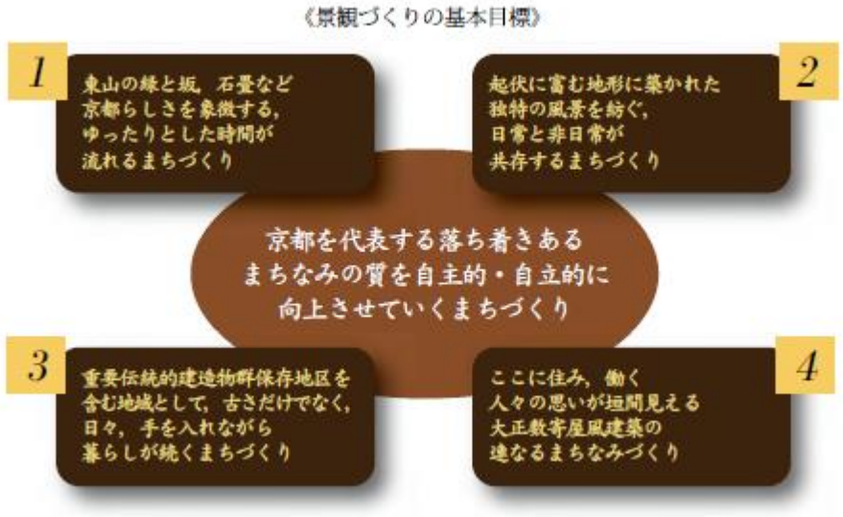
■ 樹木等

名称	天然記念物	保存樹	区民の誇りの木
ヒノキ：正法寺			東山B07
オガタマノキ：清水小学校			東山B08
エノキ：西大谷本廟			東山B12
クスノキ：若宮八幡宮			東山B10
ソテツ：西大谷本廟			東山B13
ナナメノキ：豊国廟			東山C09
ヤマザクラ：安祥院		23	

■ 一念坂・二寧坂　古都に燃える会（地域景観づくり協議会）について

一念坂・二寧坂　古都に燃える会は、地域に固有の景観、静かな環境、古都の風情を保全・継承していくため、地域で創設された組織であり、「地域景観づくり協議会制度」の認定を受けています。

1）まちづくりの基本目標



2）協議区域

景観の特性と形成方針（京都市景観計画　抜粋・要約）

東山風致地区

【概況】

地区全体として、東山連峰を構成する銀閣寺山や大文字山、如意ケ嶽、稲荷山、深草、大日山、安祥寺山等の山並みや、吉田山等の緑が保全されている。
各地域の山ろく部の社寺境内地の社寺林や参道の樹林、天智天皇陵等の緑地、京都国立博物館、蹴上浄水場や深草墓園等の大規模敷地の樹木が、山地部の森林と一体となって量感のある緑地空間を形成している。
屋敷周りの生垣や庭木、敷地規模が比較的大きい住宅地における生垣や庭木等により、緑の豊かな地域環境となっている。

1）清水寺舞台からの眺望

2）周辺の町並み（二年坂・産寧坂）

【良好な景観の形成に関する方針】

● 東山地区の歴史的環境及び自然的環境

地区全体としては、多くの社寺や名勝旧跡と一体となった自然的環境の維持、その周辺の宅地の歴史的環境及び自然的環境の維持に重点を置く。また、数多く点在する社寺の参道におけるそれぞれが特色を持った優れた風致特性の保全、さらに、東山等の山を借景とする社寺や庭園も多く存在し、これらの借景空間の保全を図る。

● 清水寺地域の趣のある沿道景観

清水寺地域では、変化の多い地形が、高台寺から清水寺へ至る散策道に代表されるようにダイナミックな景観構成を生み出し、趣のある沿道景観を形成している。霊山観音前や二年坂・産寧坂等には伝統的建造物群保存地区と重なり合う地区があり、地域全体の沿道景観の保全により、趣のある散策路の連続性を図る。また高台から市街地や社寺群を眺望あるいは俯瞰することができる視点場が数多く分布していることも特徴となっている。このため、これらの風致を維持する。

歴史遺産型美観地区（祇園・清水寺周辺）

祇園・清水寺周辺地域は、八坂ノ塔（法観寺）、高台寺等の由緒ある社寺建築物と産寧坂、二年坂の石段と折れ曲がった石畳の坂道、五条坂、ちゃわん坂等の道に沿って立ち並ぶ江戸時代末期から昭和初期にかけての京町家からなる町並み等、通りごとに特性が異なる景観が融合している。江戸時代から明治時代にかけて建てられた京町家を残す産寧坂や大正時代に住宅地として開発された石塀小路は、文化財保護法に基づく伝統的建造物群保存地区に指定し、歴史的風景の保全に努める。こうした景観特性を継承することをこの地域の景観形成の基本方針とする。
建築物は、それぞれに趣のある伝統的な店舗を構え、京町家の伝統を生かした趣の異なる特性を呈している。このため、道路に面する３階以上の外壁面を、１階の外壁面より十分に後退させることにより、２階建を基本とした京町家の町並み景観との連続性を維持する。また、日本瓦ぶきの特定勾配の屋根とし、真壁造、格子戸等の和風意匠を継承したデザインを取り入れることにより、歴史的町並み景観に配慮した景観の整備を行う。さらに、数奇屋造や民家の様式も適切に取り入れ、多様であるが統一感のある町並み景観を形成する。

3）八坂通の町並み

4）清水新道・ちゃわん坂の町並み

産寧坂伝統的建造物群保存地区

【発祥と沿革】

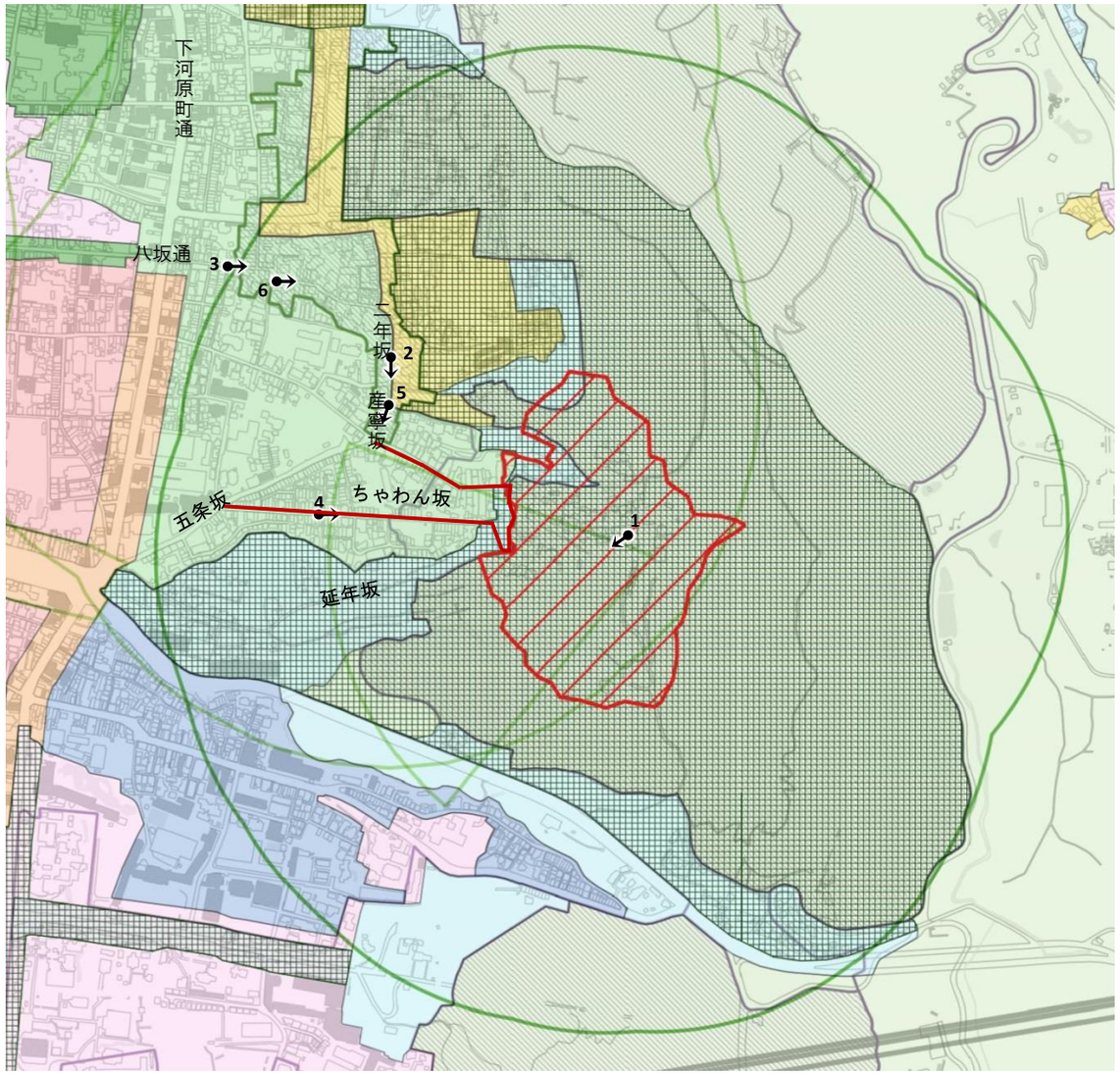
東山山ろくに位置する当該地区一帯は、京都の東郊として早くから開けたところで、平安京以前からの歴史が重畳し、今も多くの歴史的遺産を有している。
当地区は、当初、清水寺、法観寺、祇園社等の門前町としてはじまったが、江戸時代中期以降は、これらの社寺を巡る道に沿って市街地が形成され、さらに明治・大正時代の市街地の拡大をみて、今日に至っている。
なお、現在の道に沿って立ち並ぶ茶店や伝統工芸品を商う店は、近世の名所巡りの系譜をひくものとみることができる。
また、石塀小路一帯は、明治時代末期から大正時代初期にかけて、貸家経営を目的とする宅地開発が行われて、今日に至っている。当地区の景観は、下河原通と高台寺北門通を結ぶ路地（石塀小路）に特徴があり、連続する石畳や石塀、石垣は、当初の様式を保つ和風住宅群と共に大正時代初期の町並みの面影をよく残し、京都市内でも独特の空間となっている。

5）産寧坂

6）法観寺南側

【現況及び保存に関する基本的な考え方】

当地区は、八坂ノ塔（法観寺）、高台寺などの由緒ある社寺建築物、産寧坂、二年坂の石段と折れ曲がった石畳の坂道、そしてこの道に沿って立ち並ぶ江戸時代末期から大正時代にかけての町家等が一体となって優れた歴史的風致を形成している。当地区内の建造物のうち伝統的建造物は、約６５パーセントであり、江戸時代から明治時代にかけての建築であるむしこ造り町家、明治時代の本２階建町家、主として大正時代の変形町家、茶室建築の手法を取り入れた数寄屋風建築、道に面して門と塀のある和風邸宅、石塀小路において主として大正時代に建てられた石塀小路町家の６種類に大別される。そして、これらの建築物の１階部分を伝統工芸品を売る店舗にしているところも多く、それぞれに風趣のある伝統的な店構えをみせている。これらの特色ある建築物等は、主として同種類ごとに、又は他の種類とまじりあって群を構成し、それぞれに京町家の伝統を生かしながら趣の異なった特性を示している。
建築物等の修理、修景、復旧等については、当地区の伝統的建造物群の特性に応じて行い、併せて、良好な都市環境の整備を図る。



【凡例】

眺望景観保全区域
- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区
- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

景観地区
- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区　一般地区
- 歴史遺産型美観地区　歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区　界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

建造物修景地区
- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他
- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

※　詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1)　京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻　東山区. 平凡社、 1987、 p.311
2)　下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、 1979、 p.246
3)　京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻　東山区. 平凡社、 1987、 p.446
4)　同上、 p.446
5)　同上、 p.253
6)　下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、 1979、 p.246
7)　同上、 p.246
8)　京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻　東山区. 平凡社、 1987、 p.253
9)　千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、 1994、 p.275
10)　京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻　東山区. 平凡社、 1987、 p.311
11)　下中邦彦. 日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名. 平凡社、 1979、 p.246
12)　同上、 p.246
13)　京都市 編. 史料 京都の歴史第10巻　東山区. 平凡社、 1987、 p.253
14)　千宗室・森谷尅久. 京都の大路小路.小学館、 1994、 p.446
15)　第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都　世界遺産古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 1998、 p.142
16)　平凡社. 寺院神社大事典１　京都・山城. 平凡社、 1997、 p.604
17)　同上、 p.689
18)　同上、 p.55
19)　同上、 p.129
20)　同上、 p.745
21)　同上、 p.749

※　最終更新日:2023年3月